

ユニバーシアド 2012 報告書

文責 東京大学 4 年 結城克哉

この報告書では、自分のユニバーに対するモチベーション、取り組み、現地の様子や結果、そして感想を書きます。ユニバーから時間が経ってしまっており、あいまいな表現が多くなっている部分もありますが、ご了承ください。

【動機、モチベーション】

自分がユニバー出場を考えはじめたのは、2011 年度のインカレロングで優勝してからです。過去に JWOC セレを受けに行ったことはありましたが、その時は同世代の中での自分の相対位置を知りたいという言ってしまうえば内輪的なかわり方であり、海外でオリエンテーリングをすること、日本代表になることに対して強いモチベーションがあるわけではありませんでした。しかし、2、3 年とオリエンテーリングを続けているうちに、先輩・同期が海外に行きその話を聞く機会が増え、海外でオリエンテーリングをすることにあこがれが生まれました。そんな中でインカレロングで優勝し、国内の学生の中ではその集団を代表できる程度の実力はついたと思い、ユニバーを目指すことにしました。

今の段階でユニバー前の自分の内面を分析すれば、モチベーションの 8 割が海外でオリエンテーリングをすること、残り 2 割が国際的な交流あるいは海外へ行くことであり、大学生の代表として世界と戦うというアスリートのモチベーションはあまりなかったといえるでしょう。もちろん行くからには結果を残すことも意識はしていましたが、自分の正直な気持ちは上述のようなものでした。

【取り組み】

ユニバーを目指すからと言って、日常生活の中で特別なトレーニングを行うようなことはしませんでした。普段、学生オリエンティアとしてやっている肉体的トレーニングや読図を継続して行い、代表合宿に参加するという程度です。普段行っている肉体的トレーニングは、週 3~4 回、3'30 程度のペースで 8~10km 走るというもので、旧地図の読図も行いました。週末には基本的に合宿や大会でオリエンテーリングをして調整していました。代表合宿では、今まで自分の体験したことのないような考え方に会えることができ、いい刺激になりました。

【現地の様子、結果】

<トレキャン期間>

自分は先発組として 6 月 25 日に出国しました。

宿に関してはオーガナイザーと連絡が取れていたため問題はありませんでしたが、地図に関する情報が全くなく、現地入りしてから手探りの状態だったのは計画性がかけていってせっかくの練習期間を無駄にしてしまった感じは否めませんでした。地図が用意できても、トレインへの移動手段が公共交通機関やタクシーしかなく、またバス停からトレインも離れている場所が多かったので苦労しました。運営側の情報提供が曖昧だった面もありますが、移動や練習環境の用意に負担を感じている選手もいたため、あらかじめ調べておくに越したことはないと感じました。

トレキャン期間中の練習内容としては、初日は宿近くの大学構内のスプリントでオリエンテーリング

の感覚を戻し、二日目は地図はないものの山へ行って現地の状態を確認しました。三日目は Ibi というテレインへバスで向かい、現地の山と地図の対応を図り、また日本より暑く乾燥したスペインの気候の中でオリエンをする感覚をつかみました。この日に後発組と合流し、その後はそれぞれの日で違うテレインに入り、特徴物の捉え方や直進の練習を行いました。

<本戦期間>

個人戦はロングとスプリントに出場しました。

ロングのテレインはスペインの特徴的な岩石質の地面に、疎林が生えた急峻なテレインで、愛知県のテレインの植生と地面を変化させたみたい、という印象を受けました。自分の得意な種類のテレインだったのですが、細かい部分のミスや暑さで冷静な気持ちを失っていた部分でミスタイムが重なり、結果としては 105 分、全体 91 人中 71 位に終わりました。正しいルート上にいるのに現在地把握を怠って立ち止まるなど、もったいないミスが多く、自分がベストの走りをすれば 95 分くらいだったでしょう。

スプリントのテレインは旧市街地内で入り組んだ路地や階段が多く細かい地図読みを要するテレインでした。落ち着いて脱出の際にしっかりと地図を読んでおく必要があるとは感じていたのですが、後ろから来る海外選手に追われて冷静さを保てず、結局ミスを重ねてしまう結果になりました。

個人戦の 2 種目は自分の中で点数をつけるとしたらロング 50 点、スプリント 30 点という感じでしょうか。やはりオリエンテーリングは肉体的なスポーツではあるけれども、メンタル面が大きく結果を左右すると思いました。海外だからといって日本とやることは変わらないので、もう少し落ち着いた気持ちで臨めると結果がもう少し上になったかな、と思います。

団体戦のリレーでは、田邊選手、尾崎選手と一緒に走りました。走順は 2 走。

個人戦で思うような走りができていなかったのも、一緒に走る仲間のためにもできるだけいい順位で帰って来るとというのが目標で、具体的な数値目標は特に掲げていませんでした。順位を上げるためには速い海外選手にパックする必要があるのかと思っていましたが、いざレースに臨むと、31 位スタートというのもあってか周囲にあまり速い国の選手がおらず、結局海外選手に会ってもそのまま抜いてパックにはならず終わりました。

ロングレース中にも何人かの海外選手に会って感じましたが、道上のスピードはついていける程度。しかし不整地の下りなどでは海外選手のほうが圧倒的に速かったです。また、食堂とかで海外選手と話してみて、スウェーデンなど、環境に恵まれたチームは週に何度もオリエンテーリングを行っています。あくまで基礎練習(コンパスワーク、走りながらの読図など)の量が日本は圧倒的に足りないと思いました。

自分は、本戦の全種目共通で「日本人ではトップを譲らない」という目標を立てていましたが、日本国内で競うよりも海外に目を向けて練習をしないとこれ以上のレベルアップは難しいと感じました。

【感想】

ユニバーの前後で、自分の価値観は大きく変化しました。

ユニバーに行くまでは、精神的に「日本国内」に縛られていたのだと感じました。日本にいてもスペイン料理は食べられますが、現地の気候、食材、建物といった周辺環境が違うだけで印象はまったく変

わってきます。ものを楽しむのには時間・場所など限られた条件を探すこと、そしてある程度の予備知識が必要であると。オリエンテーリングとはあまり関係ありませんが、現地に行ってもっともよかったと思ったのはこのような価値観の変化でした。

また、オリエンテーリングという共通の知識がある上で、海外の選手と話してみると、取り組み方や各国の状況が知れて自分のやり方との違いを身近に感じられます。このような体験は日本国内でオリエンテーリングをしていても得られません。

日本と海外の競技レベルの違いに関して。現状で差を埋めるには、個人的に工夫して練習を行う以外にないと思います。代表合宿があるとはいえ週 2 日が限度、海外選手は 5 日行っているところもあると考えると、マップに触れながら生活する時間にどうしても差が生まれてしまい、それを埋めるには「毎日の生活の中に地図を取り入れる」必要があると感じました。

これから、ユニバーを目指す人へは、とにかく海外について知ろうと思うことと、競技に対してもそれ以外に対しても積極的にかかわっていかうとすることが大事だと言っておきます。興味を持って主体的にかかわっていけばこんなに楽しい経験はないはずです。競技面もしかり、競技以外の面もしかり。

脈絡もなく書いてきましたが、今回のユニバーで一番印象に残ったのはともに遠征した仲間でした。個性が強く、それぞれで考えているところが違うので退屈することもなく、楽しく遠征することができました。2 週間、ともに過ごしてくれてありがとうございました。

そして、合宿や現地でお世話になった小山さん、吉田コーチ、合宿の運営をしてくださった方々、本当にありがとうございました。並んで、日本から応援してくれた人たちにも感謝の言葉を述べたいと思います。応援ありがとうございました。ユニバーの代表に決定してからユニバーが終わるまで、自分のことで精一杯であつという間に過ぎてしまいましたが、このような人たちの支えなしには自分のユニバーの旅は成り立ちませんでした。

以上です。